

Title	Hobby Engagement and Risk of Disabling Dementia
Author(s)	Matsumura, Takumi
Citation	大阪大学, 2022, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/89532
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について <a>〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

論 文 内 容 の 要 旨
Synopsis of Thesis

氏 名 Name	松村 拓実
論文題名 Title	Hobby Engagement and Risk of Disabling Dementia (趣味と要介護認知症の発症リスクとの関連)
論文内容の要旨	
<p>〔目的(Purpose)〕 趣味と要介護認知症の発症リスクとの関連を明らかにすることを目的とした。</p>	
<p>〔方法(Methods)〕 1993-1994年に実施した自記式質問紙調査で趣味の項目に回答があり、質問紙調査回答時に脳卒中の既往のない40-69歳の男女22,377人を対象とした。介護保険情報を用いて、「要介護1以上かつ主治医意見書の認知症高齢者日常生活自立度がⅡa以上の者」を「要介護認知症」と定義し、2006年から2016年まで追跡調査を行った。地域層別化Cox比例ハザードモデルを用いて、要介護認知症発症に対する多変量調整ハザード比及び95%信頼区間を算出した。また、病型別解析として、要介護認知症発症前の脳卒中既往の有無に基づき、脳卒中既往のない認知症と脳卒中既往のある認知症に分類した。脳卒中既往の情報は2012年までしか得られていないため、病型別解析では2006年から2012年までを追跡期間とし、地域層別化・Cause-specific Cox比例ハザードモデルを用いて、要介護認知症（病型別）発症に対する多変量調整ハザード比及び95%信頼区間を算出した。</p>	
<p>〔成績(Results)〕 11.0年（中央値）の追跡期間中に3,095人が要介護認知症を発症した。要介護認知症発症に対する多変量調整ハザード比（95%信頼区間）は、「趣味なし」群と比べて「趣味あり」群で0.82（0.75-0.89）、「趣味たくさんあり」群で0.78（0.67-0.91）であった。自記式質問紙回答時点の年齢層（40-64歳と65-69歳）で関連に有意な違いは認められなかった（年齢層の交互作用：「趣味あり」群 P=0.32、「趣味たくさんあり」群 P=0.42）。認知症の病型別に検討した結果、脳卒中既往のない認知症とは有意な負の関連が認められたが、脳卒中既往のある認知症とは有意な関連が認められなかった。脳卒中既往のない認知症発症に対する多変量調整ハザード比（95%信頼区間）は、「趣味あり」群で0.77（0.68-0.88）、「趣味たくさんあり」群で0.77（0.60-0.98）、脳卒中既往のある認知症発症に対する多変量調整ハザード比（95%信頼区間）は、「趣味あり」群で0.89（0.71-1.11）、「趣味たくさんあり」群で0.93（0.62-1.38）であった。</p>	
<p>〔総括(Conclusion)〕 趣味は、脳卒中既往のない認知症の発症リスクを低下させる可能性が示された。</p>	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 松村 拓実

	(職)	氏名
論文審査担当者	主査	大阪大学教授 榎江 友孝
	副査	大阪大学教授 池田 亨
	副査	大阪大学教授 梁木 良実

論文審査の結果の要旨

趣味と認知症の発症リスクとの関連を検討した研究は少なく、また先行研究は65歳以上の高齢者を対象とした短期関連による検討であることから因果の逆転の影響を受けている可能性がある。申請者は、40-69歳の男女22,377人を対象とした長期追跡研究により、趣味と介護保険情報により把握した認知症（以下要介護認知症）との関連を検討した。その結果、趣味回答時の年齢層（中年期：40-64歳、高齢期：65-69歳）のいずれにおいても、趣味は要介護認知症の発症リスクを有意に低下させることを示した。また、要介護認知症発症前の脳卒中既往の有無に基づき、脳卒中既往のない認知症と脳卒中既往のある認知症に分けて検討した結果、趣味が脳卒中既往のない認知症の発症リスクを有意に低下させることを示した。

高齢化に伴い認知症患者数は急速に増加しており、認知症の予防は喫緊の課題である。本研究は、趣味が要介護認知症の発症リスクを低下させることを示唆するものであり、認知症予防のエビデンスの一助となるものである。よって学位に値するものと認める。